

詩

名づけられた葉

新川 和江
しんかわ かずえ

P.14~17



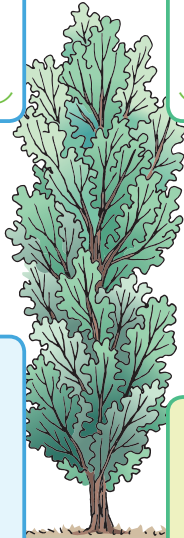
●リズムを感じ取りながら繰り返し音読して、詩に込められた思いを捉える。

読解

◆ ◆ ◆
ステップ1 内容を整理しよう

◆ () にはあてはまることばを詩の中から抜き出して、詩の中で対比されているものを整理しよう。

みな同じ名で呼ばれる



ポプラの木

にんげんの歴史

③
で呼ばれる…名づけられた葉

②

①

◆ ◆ ◆
ステップ2 内容を読み取ろう

1 第一連の「緑の小さな手」「てのひら」は何をたとえたことばですか。第一連から抜き出そう。

「緑の」とあることに注目しよう。



2 第二連で「わたし」をたとえていることばを、六字と七字で二つ抜き出そう。

3 第二連で、作者は「わたし」をどのような存在だと考えていますか。適切なものを次の中から選ぼう。

- ア 歴史的な存在
- イ 情熱的な存在
- ウ 偉大な存在
- エ ちっぽけな存在

4 「誰のまねでもない……うつくしく散る法」とはどのよ
うなものでしょうか。適切なものを次の中から選ぼう。

- ア 他者に同調して、自分の個性を主張せずに生きる方法
- イ 自分の個性を磨きかがやかせ、自分らしく生きる方法
- ウ 自分の身体を鍛えて、誰よりも強く美しく生きる方法
- エ 他者と妥協せず、自分の考えにこだわって生きる方法

5 この詩のテーマについてまとめます。〔 〕にあてはま
ることばをあとから選ぼう。

・ 作者は、自分も一枚の「ポプラの葉」のように

① 〔 〕存在だが、「② 〔 〕」をもっているの
だから、③ 〔 〕があっても自分らしく生きようと
いう決意をうたっている。

- ア 小さくて弱い
- イ 若々しい
- ウ 自分だけの名
- エ つらいこと
- オ 人生の楽しみ

①は第二連の「不安げにしがみついた／
おさない葉っぱ」、③は第三連の「どん
なに風がつよくとも」を、人に置きかえ
て考えてみよう。



ステップ3 考えを深めよう

◆ 〔 〕にあてはまることばを入れて、「名づけられた葉」
の三つの連の関係をまとめよう。

読み方を
学ぼう①

詩の構成 (教17ページ)

